



## 日本骨髄バンクの現状（平成 23 年 9 月末現在）

	8 月	9 月	現在数	累計数
ドナー登録者数	3,524	3,837	392,092	514,363
患者登録者数	277	205	2,780	33,936
移植例数	103	118	-	13,397

### ■20 歳未満のドナー登録者数

9 月 171 人  
合計 15,703 人（17 年 3 月～）

### ■51 歳以上のドナー登録者数

9 月新規 177 人  
延長 228 人  
合計 24,395 人

■9 月の区分別ドナー登録者数：献血ルーム／1,554 人、献血併行型集団登録会／2,120 人、集団登録会／85 人、その他／78 人  
注）数値は速報値のため訂正されることがあります。

■骨髄バンクを介して 2 回提供された方（累計数）717 人 ■DLI（ドナーリンパ球輸注）療法の実施件数（累計数）448 件

### ■国際協力の現状（2011 年 7 月～9 月）

<海外ドナー⇒国内患者> 移植数 0 件：累計移植数：168 件

<国内ドナー⇒海外患者> 提供数 3 件：KMDP 2 件、フランス 1 件、累計提供数：207 件

## 1 公益財団法人への認定申請について

平成 20 年 12 月 1 日に施行された新公益法人制度により、当財団は、平成 25 年 11 月 30 日までに公益財団法人または一般財団法人のいずれかに移行する必要があります。

当財団は寄附金に優遇税制が適用される公益財団法人に移行することとし、9 月 26 日に内閣府公益認定等委員会に認定申請を行いました。

同委員会による審査の結果、公益財団法人に認定された後は、法務局において新法人設立の登記を行い、平成 24 年 4 月 1 日（予定）より「公益財団法人 骨髄移植推進財団」と名称変更をして、新たなスタートを切ることになります。

新法人移行前と移行後において、当財団の業務内容に変更はありませんが、これまでの「寄附行為」から新しい「定款」のもとで業務運営を行うことになります。

また、新制度における評議員会は「最高意思決定機関」、理事会は「業務執行機関」へと大きく役割が変わるとともに、評議員会・理事会への委任状や書面表決の提出が禁じられているため、それぞれの会議への出席が義務付けられます。

さらに、厚生労働省から内閣府に監督官庁が変わり、毎年度、今回と同様の公益法人認定審査を受けることになります。

## 2 非血縁者間末梢血幹細胞採取施設・移植診療科の認定について

以下の施設が新たに非血縁者間末梢血幹細胞採取施設・移植診療科として認定されました。これまでに認定された施設は 30 施設です。

新規認定施設については、当財団ホームページ>患者さんへ

>移植認定病院およびドナー登録されている方へ>面談施設一覧でもご覧いただけます。

### ◆非血縁者間末梢血幹細胞採取施設・移植診療科

・採取施設

・移植診療科

財団法人田附興風会医学研究所北野病院

同左 血液内科

※上記施設は骨髄採取施設・移植診療科としても同時に認定されました。

### 3 PBSCT を含むコーディネートについて

マンスリーJMDP 8 月号でお知らせしたとおり、本年 10 月より、末梢血幹細胞移植（PBSCT）を含むコーディネート対象ドナーの条件から「骨髄バンクでの骨髄提供経験あり」を解除しました。

これにより、PBSCT を含むコーディネート件数の増加が予想されます。

PBSCT を含むコーディネートの条件と対応は次のとおりです。

#### ■ PBSCT を含むコーディネートの条件

- ①患者が非血縁者間 PBSCT 認定施設で移植予定であること
- ②HLA アリルミスマッチがないこと
- ③ドナーが PBSC 採取施設へ通院可能（近隣在住）であること

#### ■ PBSCT を含むコーディネートの対応

- ・当面、地区事務局業務は、東京のドナーコーディネート部 PBSCT 担当が一括して行う（全国の地区事務局での対応は来年 6 月頃からを予定）。
- ・ドナーの方への説明には『骨髄または末梢血幹細胞提供者となられる方へのご説明書』（青色の冊子）を使用する。

上記の条件を満たさない場合は骨髄提供のコーディネートとして、これまでどおりの対応をします。

#### ■ 骨髄提供のコーディネートの対応

- ・地区事務局業務は各地区事務局が行う。
- ・ドナーの方への説明には『骨髄提供者となられる方へのご説明書』（ピンク色の冊子）を使用する（原則として PBSCT に関する説明等は行わない）。

なお、当財団では現在、来年 6 月頃からの本格稼働（全国の地区事務局で PBSCT を含むコーディネート業務を開始すること）に向けて、コンピューターシステムの全面改修を行っています。

### 4 骨髄移植までの待機期間が長い現状について

患者さんの移植希望時期に合わせた骨髄等採取施設の日程確保が困難な状況下に陥っていることは数年来の課題になっています。採取施設が確保できないことにより待機期間の間に患者さんの容態が変化し、せっかくドナーが存在するにもかかわらず移植に到達できない患者さんがたくさんいます。

この要因は、採取日程調整の行程で多くの時間が費やされてしまったことによるものと考えられます。財団では、各認定施設の皆様は大変なご努力の上、採取をお引き受けいただいていることは重々承知ながら、より一層の特段の便宜を図っていただきたい由を、関係学会※にお願いしました。

- ※ 日本造血細胞移植学会  
日本血液学会  
日本小児血液学会  
日本輸血・細胞治療学会

## 5 厚生科学審議会報告

10月13日(木)15時より第32回厚生科学審議会疾病対策部会造血幹細胞移植委員会が実施され、①骨髄移植、末梢血幹細胞移植及びさい帯血移植の現状について、②さい帯血バンクをめぐる状況について、などが報告、検討されました。当財団からは、正岡理事長が非血縁者間末梢血幹細胞移植の導入後の経過報告と今後の予定について説明を行いました。その後、日本赤十字社におけるさい帯血バンク事業検討委員会の検討状況報告や、さい帯血バンクネットワークの将来構想検討委員会中間報告などがあり、意見交換が行われました。

## 6 「骨髄バンク 20 周年記念全国大会」について

先月号でもご案内した通り、下記の概要で骨髄バンク 20 周年記念全国大会「ありがとう 20 年、つなげよう未来へ」を開催いたします。第 1 部は 20 周年記念式典、第 2 部は骨髄バンクのこれまでを振り返る企画や、バンクを介して骨髄移植を受けられた慶應義塾大学教授 浅野史郎先生の講演などが予定されています。

日時：12月17日(土)13:00~16:30

場所：東商ホール(東京都千代田区丸の内3-2 東京商工会議所ビル4階)

※参加無料、どなたでもご参加いただけます。

※プログラムの詳細は当財団ホームページをご覧ください。

## 7 骨髄バンク 20 周年記念キャンペーンイベント「SBPIF 2011」 開催決定

骨髄バンク 20 周年記念キャンペーンイベント「Snow Bank Pay It Forward 2011 スノーボードと骨髄バンクを未来へ伝える」が11月12日(土)、13日(日)東京都渋谷区の代々木公園イベント広場にて開催されます。実行委員長は骨髄バンクを介しての骨髄移植で慢性活動性 EB ウィルス感染症を克服された、プロスノーボーダーの荒井“daze”善正さん。「多くの若い人たちに骨髄バンクについて知ってもらいたい」というお気持ちから、雪山ではなく、代々木公園での開催を企画されました。

「プロボーダーと一緒に滑ることができる!」というのがこのイベントの目玉ですが、提供ドナーの方や元患者さんも企画の段階から参加されており、移植を受けた患者さんによるステージ演奏や、原発事故の風評被害に苦しむ福島の実状を伝えるパネルディスカッションなど、内容は多彩です。子どもたちのためのグレンデ開放やケータリングブースなど、スノーボードをしない方にも楽しんでいただけますので、ぜひご参加ください。

13日(日)には献血併行ドナー登録会も予定されています。

「SBPIF2011」公式ホームページ <http://www.sbpif.net/index.html>

## 8 財団の会議開催予定

傍聴をご希望の方は、事前に財団事務局総務部までお申し込みください。

	公開・非公開	開催予定
常任理事会	公開・一部非公開	10月20日(木)17:30~ 廣瀬第1ビル2階会議室
常任理事会	公開・一部非公開	11月17日(木)17:30~ 廣瀬第1ビル2階会議室



## コーディネーター関係者のコーナー

以下は、医師およびコーディネーターの皆さまを対象としています。

### 9 抗凝固剤（ヘパリン）最終濃度について（採取施設の先生方へ）

このたび、移植施設から、採取された骨髄液総量中の抗凝固剤（ヘパリン）の最終濃度が非常に低かったとの報告がありました。幸い採取した骨髄液に凝固は認められませんでした。ドナー安全委員会において、抗凝固剤の適正使用に関する注意喚起が必要と判断されましたので通知します。

なお、本事例の原因として、当該採取施設では、「骨髄採取マニュアルの記載にある「最終ヘパリン濃度」を『骨髄液＋希釈液（総量中）』ではなく、『希釈液中』の濃度と理解していた」と報告されています。

各認定施設におかれましては、骨髄採取マニュアル 第四版(P5)の記載、「最終ヘパリン濃度」について、骨髄液総量に対するヘパリン濃度を示しており、希釈液中のヘパリン濃度を示すものではありませんので、再確認をお願いいたします。

詳細につきましては、別紙「抗凝固剤（ヘパリン）最終濃度について（安全情報）」をご参照ください。

### 10 使い捨て骨髄採取針（ディスポ針）の使用状況について

このたび、ドナー、調整医師、コーディネーターの方々から、どのくらいの骨髄採取施設で使い捨て骨髄採取針（ディスポ針）を使用しているかという質問が寄せられました。直近5年間の採取施設の骨髄採取報告書をもとに骨髄採取針の使用状況を調査した結果を下記にお示しします。

#### 【調査結果】

◇調査期間：2006年4月～2011年3月

◇対象施設数：168施設

◇使用状況：

①ディスポ針を使用：163施設 97.0%

②非ディスポ針を使用：3施設 1.8%

③ディスポ針、非ディスポ針の両方を使用：2施設 1.2%

財団ドナー安全委員会では『感染予防の観点から採取針はディスポ針を使用する事が望ましい』（骨髄採取マニュアル第四版）としていますが、各認定施設の状況等を考慮し、これを義務付けてはいません。

また、コーディネーターが使用する説明用グラビアに「ディスポーザブル（使い捨て）の針を使います」と記載されています。次回改訂時に「ほとんどの施設がディスポーザブル（使い捨て）の針を使います」と変更する予定ですが、改訂されるまでの間、必要に応じて上記の通りの説明をしていただきますようお願いいたします。



## 11 HLA 型によるドナー選択についてのお願い（患者登録医師の方へ）

患者コーディネートを進めるにあたり、ドナー選択に関する判断は担当医師に一任していますが、ミスマッチの見落とし等が多くみられます。希望されたドナーにミスマッチがあった場合、念のために財団から進行の可否についてお伺いすることもあります。基本的にはご担当の先生ご自身が責任を持ってドナーを選択してくださいますようお願いいたします。

＜検索対象となる全ドナーの HLA 情報について＞

事前に HLA 照合サービスで、フルマッチドナーやアリルミスマッチドナーの人数などご確認いただき、全体像を把握しておかれると、効率よくコーディネートを進めることができます。

＜ドナー選択に迷われる場合＞

「HLA 相談窓口」への相談も可能です。必要な場合は、必ずドナー選定する前（ドナーを一人に決める前）にお問い合わせください。

## 12 検体保存事業（研究基盤整備事業）について（移植・採取責任医師の方へ）

当財団では、平成 5 年 1 月より、移植／採取前に採血した患者・ドナーの血液検体を、移植成績向上やドナーの安全性向上を目的とする研究に使用するための検体保存事業を行っています。

これまで、検体の送付先（保存施設）である東海大学と当財団は、研究基盤整備の共同研究を行ってきましたが、今年度より、同大学と業務委託契約を締結することになりました。

これに伴い、別添「検体保存事業に関する概要（研究基盤整理）」を改訂しましたので、ご確認くださいますようお願いいたします（患者・ドナーへの対応については変更ありません）。

移植成績向上およびドナーの安全性向上のため、今後ともご協力よろしく申し上げます。

## 13 連絡事項

◆第 17 回コーディネーターブラッシュアップ研修会の出欠確認について（コーディネーターの方へ）

マンスリー JMDP 6 月号にてご案内のとおり、第 17 回コーディネーターブラッシュアップ研修会は、本年 12 月 17 日に開催される「骨髄バンク 20 周年記念全国大会」に併せて開催します。

詳細につきましては別途ご案内いたします。出欠について返信用紙を同封いたしますのでご記入の上、FAX にてご返信ください。

＜1 日目＞ ■20 周年記念大会

日時：平成 23 年 12 月 17 日（土）13 時～17 時（予定）

場所：東商ホール（東京都千代田区丸の内 3-2 東京商工会議所ビル 4 階）

＜2 日目＞ ■第 17 回コーディネーターブラッシュアップ研修会

日時：平成 23 年 12 月 18 日（日）9 時～13 時（予定）

場所：損保会館 大会議室（東京都千代田区神田淡路町 2-9）